9月号 全家研 月刊ポピー 国語 一口ポイント 東書版

▼今月の『ポピー』の国語で学習するおもな内容と大切なことがらです。

📖の数字は，教科書のページ数です。

1年 かいがら 📖114～120

●くまの子が、うさぎの子に、海で拾ってきたおみやげの貝がらをあげる**お話**です。

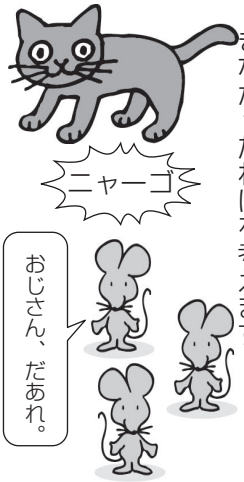
●くまの子の気持ちを想像しながら読みます。

くまの子　「どれが　すき。」
うさぎの子「これが　いちばん　すき。」
くまの子　「ああ、ぼくと　いっしょだ。」

2年 ニャーゴ 📖125～137

●三匹の**子ねずみ**と、その子ねずみを食べてやろうとする**ねこ**との楽しい**物語**です。

●ねこが子ねずみたちを食べることができなかったわけを考えます。



3年 サーカスのライオン 📖127～143

●サーカスの**ライオンのじんざ**が、仲良くなった男の子を火事から助け出す**物語**です。

●場面ごとに**様子**や**気持ち**を読み取ります。

1　年をとったライオンのじんざがおりの外に散歩に出る。
2　じんざと男の子が出会う。
3　男の子が、サーカスのじんざを毎日訪れる。
4　男の子を火事から救い、炎となったじんざ。

じんざは、金色のライオンになって、空をかけていったんだよ。

4年 一つの花 📖125～136

●食べ物も満足に口にできない、戦時中の**物語**です。

●幼いわが子(ゆみ子)に対する両親の気持ちを読み取ります。

1「一つだけ……」という言葉を最初に覚えたゆみ子。
2　両親のゆみ子に対する思い。
3　父のいない、十年後の母とゆみ子。

5年 注文の多い料理店 📖116～135

●生き物を殺すことを何とも思っていない二人の若い紳士が、生き物に食べられそうになる**物語**です。

●料理店の戸にかかれた**注文の意味**を読み取ります。

・料理店の戸の言葉を、自分の都合のよいように読み取っていく。
・料理店の戸の言葉がおかしいと気づく。

どなたもどうかお入りください。決してごえんりょはありません。

注文はずいぶん多いでしょうが、どうかいちいちこらえてください。

宮沢賢治は、自分勝手な人間に対する警告をこめて、この物語を書いています。

6年 海のいのち 📖112～127

●海で死んだ父のあとをついで漁師になった**太一**(たいち)の、成長の**物語**です。

1　**瀬の主**との戦いに敗れた父。
2　太一が弟子になった**与吉**(よきち)**じいさ**が教えてくれる。
「千びきいるうち一ぴきをつれば、**ずっとこの海で生きていける**よ。」
3　何年かのち、与吉じいさも海に返ったある日、太一はついに瀬の主と会う。
4　太一には、大魚はこの**海のいのち**だと思えた。